

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 28 年度 第 1 回 相模原市総合計画審議会			
事務局 (担当課)		企画政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)			
開催日時		平成 28 年 5 月 27 日 (金) 18 時 00 分 ~ 20 時 00 分			
開催場所		相模原市役所 本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室			
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)			
	その他	0 人			
	事務局	7 人 (企画財政局長、企画部長、企画政策課長 他 4 人)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	0 名
公開不可・一部不可の場合は、その理由					
会議次第	<p>開会</p> <p>1 議事</p> <p>(1) 平成 28 年度の総合計画進行管理について</p> <p>(2) その他</p> <p>閉会</p>				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 小林企画部長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 平成 2 8 年度の総合計画進行管理について

本日の議事 (1) 「平成 2 8 年度の総合計画進行管理について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料の説明が行われた。

資料 1 「 3 進行管理の方法」「(1) 評価」の部分について、一般的に考えると評価の方法としてどのような方法を取っているのかを記載するものである。評価指標はどういったもので、どのような評価基準で評価を実施するかを記載する必要があるのではないか。

成果指標や業績評価指標は原則として、アウトカム指標を設定する。それが困難な場合は、インプットやアウトプット指標を用いることである。単なる量的な活動が増えるだけではいけない。適正な水準を常に考えながら指標設定することなどの記載が必要ではないか。

評価についても A B C D で評価しているが、基準を明らかにする必要があるのではないか。(1) を「評価の方法」として ア評価の視点 イ評価の指標 ウ評価の基準とすべきではないか。

業績評価指標については、最終的な成果を示す「成果指標」の達成に向けた担当部局の努力、結果責任を問うものである。このことについても明記すべきではないか。

資料では、サブ指標を業績評価指標に置き換えたという記載だが、それ以上に強い意味があることを示したほうが良い。このことを資料 1 及び 2 で記載したほうがよい。

資料 5 2 ページの「 5 基本計画で定めている指標と各年度の目標及び実績」に「結果の分析」の欄があるが、しっかりとした業務分析を行うことが必要。従前から、「前年度の業績を上回った」という表現である。なぜ、B 評価になってしまったのかが分析されていない。総合評価の欄について、具体的な記載が

求められる。この点を各局区に注意を促していただきたい。

業績評価指標についての説明があるべき。

成果がすぐに出ない施策・事業について、何かしているはず。そのことについて、サブ指標が代わりの役目を持つことをはっきりと記載したほうが良い。

業績評価指標という言葉が少しわかりにくい。

業績評価指標には、担当各部局の成績を明らかにする意味がある。

資料1「3」「ウ 実施年度」に毎年度測定することが不可能な指標である場合には、成果指標を補完する指標の設定や主な事務事業の取組など、他の項目により評価を実施する。とある。この部分が業績指標の説明ではないか。

成果指標を補完する指標とはなにか。

いわゆる昨年度までのサブ指標のことである。

民間企業は、業績がすべてである。この点は行政の仕事と違う部分である。その点で混乱があった。

業績評価指標とすることで担当部署の目的が明確になるのではないか。

業績評価指標の説明欄にもう少し詳しく明記したい。

資料5の例示だが、昨年見たものの方が良い意味で深い記載があったと思うが、記載するマニュアルが変わったのか。

記載内容の理解を深めていただくため、見本として用意したものである。

記載するレベルも求めているのか。

記載例のため、そこまで追求して作成したものではない。

資料5の記載例の内容が今年の求める水準とすると、レベルが下がってしまう。

記載例については、結果の分析などが甘い部分がある。各部局への依頼時には考慮したい。

担当部署に作成を依頼するマニュアルで求めるレベルはどのレベルのものか。

例えば、近隣との自治体との比較の記載や、5年間の推移などはいかがか。

依頼マニュアルに記載された要求レベルが所管課での記載内容に左右される部分があるが、マニュアルで要求していないのか。

記載要領はある。ただし、施策には、様々な側面があるため、個別に記載内容のやり取りを各部局と実施して2次評価に臨むようにしている。

マニュアルの委員への提出は可能であるか。

おそらく職員が考えている思考と委員の思考が違う。評価手法等の担当課職員への説明を通知だけでやっているのか、もしくは説明会を実施しているかなどを知りたい。なぜこのようなことをいうかということ、国連や国、JICAなどは、独立した部署で評価を実施しているが、相模原市は内包して実施している。結果、職員によって表現の相違が生じる。クオリティコントロールという意味では、マニュアル作成や訓練が必要であり、それが表現の相違が生じる原因だと考える。数値目標は、以前は「建物を建てる」とかを評価していたが、現在は「みんなが幸せであるか」を簡易的に測っている。数値目標を上げる場合は、その理由を明らかにしないと危険である。

細かなマニュアルがあればよいが、大まかに言えば、「しっかりと政策分析しなさい、その結果の検証をしっかりと記述してください」ということである。マニュアルを作成するかは、これからの課題だが、これまでやってきて、結果の分析や総合分析、庁内横断的な連携などが不十分であり、具体的にどういう成果であったのか、成果が出なかったのであれば何が原因だったのか、原因分析をしっかりと実施して記述するよう求めたい。法令だけにしがって仕事をしていてはだめである。創意工夫を持って取り組んでいただきたい。

業績評価指標という言葉がいまひとつ理解できない。

これまでのサブ指標と実質的に内容が違うのか。

内容は同じである。呼び方が違うだけである。

サブ指標というネーミングは、いかにも自信が無いように感じ取れる。各所属が事業実施に責任を問われるという自覚を促すためにも、業績という言葉を使おうというものである。

これまでも業績を求めていたが、ここでサブ指標から名称を業績評価指標に変えるということか。

そのとおりである。資料5にある結果の分析など、それができていない。担当課が業績を意識して取り組んでいないことが読み取れる。それでは困るということである。その点を意識して記載してほしいということを含めて、業績評価指標という名称をつけるものである。

進行管理シートは、以前と比べて整理されていて見やすく、わかりやすくなっている。そのほか、結果の分析については、もう少ししっかりと記載してほしいと思う。

業績評価指標がサブ指標から名称を変更したもののだが、ここにいる人はわかるが、初めて見る人はわからない。ここで、しっかりと定義し、その内容を記載したほうが良い。

先ほども申し上げたとおり、成果指標は、各施策の最終的な成果を数値化したものであり、業績評価指標は、成果指標を達成するための主要事業の達成を示すものである。このことを明確に定義したほうがよい。

定義や基準を明記したほうが良い。また、進行管理シートについては、わかりやすくなったと思う。

総合戦略の連携効果とはどのように評価するのか。

連携した指標が設定されていない。総合評価等の記述から判断するしかない。その事業の各局区の関連図などがあればよい。本来的には、指標設定できると良い。この点については、事務局に理解してもらいたい。

企業であれば、サプライチェーンにおける共同調達で費用低下などが連携効果として挙げられると思うが、行政だとそういうものでもない。

その点は、プロジェクトの性格を事務局でよく精査してもらいたい。

この点は最後まで問題になってくるかもしれない。

国では地方創生から一億総活躍プランに移行してきているようにみえるが、とはいえ交付金をいただいている以上効果的に使えるようにしたい。

資料3について、指標一覧の33番から35番の設定理由がおかしい。誤りではないか。資料の改めての確認をお願いしたい。

資料作成の段階でずれてしまっているため修正する。

資料5にある児童相談所整備事業だが、児童相談所は、このところ2回全国にマイナスの情報発信をしている。結果を見れば運営の仕方を見直さなさいということになる。その辺の記載も求めたい。

総合戦略の評価のフォーマット及び目標値、指標は同じものか。

同じものである。ただし、交付金の事業は、事業そのもののKPIがあるのでその指標を使う。

部会を実施するときに違うフォーマットだと戸惑う可能性がある。同じがよい。

交付金の一覧に金額が記載しているが、この金額が全てなのか、それ以外にも市の予算が使われているのか。それがわかるようにしていただくとよい。

進行管理シートにわかるように記載したい。

実績は上がっているのか。

詳細は確認していないが、上がっているものと考えている。評価時に説明したい。

資料2の2次評価の方法の部分に、先ほど皆さんが発言されたとおり、「しっかりとした政策の分析結果を記載すること」と資料に記載したほうが良い。

資料5結果の分析を見ると、やはり審議会の意図と所属の意図が違っている。所属は、なぜBだったのかを書いている。そうではなく、なぜそうなったのかを書くように指示したい。

書く立場になったときに、わからないのは、目標どおり実施した、という表現があるが、
を整備するというようなものを評価するときに、どのような

点を注意したらよいのか。目標の書き方の問題なのか。

整備した結果としてどのような効果があったのかを記載してほしい。ただ、ハコモノを作ったという目標ではない。

目標の書き方である。

ハコモノは施設サービスを提供するために作っているものである。本来であれば、その点を考慮してほしい。

事業の概要の部分に記載すべきものもある。

調達と活動を混同している。そのことが原因である。

書く立場からすると、事業の概要に設定の背景を書くことにするか、目標のところに書くか整理したほうが良い。そのことで記載内容が統一される。

一つ一つの事業の内容が素人はわからない。改めて背景や目的が記載されているとわかりやすい。

今日の意見を元に再度作成し直して次の会議の前に目を通していただいて2次評価を実施するという形によろしいか。

異議なし

(2) その他

議事(2)「その他」について事務局から説明願いたい。
特になし。

他に意見等がないようなので、本日の議事は終了とする。

閉会 小林企画部長

以上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科教授		欠席
2	岡本 真佐子	青山学院大学地球社会共生学部 地球社会共生学科教授		出席
3	金森 剛	相模女子大学人間社会学部 社会マネジメント学科教授	副会長	出席
4	佐藤 慶一	公募		出席
5	長野 基	首都大学東京都市環境学部建築都 市コース・大学院都市環境科学研 究科都市システム科学域准教授		出席
6	林 恵子	公募		出席
7	宮 久美子	公募		出席
8	三好 上次	公募		出席
9	横川 剛毅	和泉短期大学児童福祉学科准教授		出席
10	吉田 民雄	総合政策プランナー	会 長	出席